

# Argentina

アルヘンティーナ

No. 57

アルゼンチン建国200周年  
記念事業特集号



祝 アルゼンチン建国  
二〇〇周年記念つまぶる  
八月二十八日(土) 十時—十八時



社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2011年1月

駐日アルゼンチン新大使ご着任 .....2

SIMPLEMENTE, HASTA PRONTO

アルトウーロ・G・マルフォルト武官

離日ご挨拶 .....3

2010年 アルゼンチン建国200周年記念事業

～当協会が主たる関与をした主要事業の成果～

1. 5月25日(火)

建国(革命)200周年記念式典 .....5

2. 5月26日(水)

アルゼンチン・ガラ・ナイト .....5

3. 6月4日(金)

長田小学校「アルゼンチンの日のつどい」....5

4. 8月28日(土)

「フィエスタ・アルヘンティーナ in Hibiya」...6

5. 10月11日(祝日)

日亜友好親善サッカー試合 .....6

6. 10月16日(土)

第15回(200周年記念スペシャル)

「タンゴ音楽の集い」.....7

7. 11月7日(日)

第48回アルゼンチン共和国杯競馬 .....7

8. 12月16日(木)

アルゼンチン写真コンクール

「アルゼンチンから吹く風」.....8

亜国人若者を通して知ったアルゼンチン魂 .....8

キルチネル前大統領の逝去と亜国政情

～アルゼンチン政治経済短信～ .....10

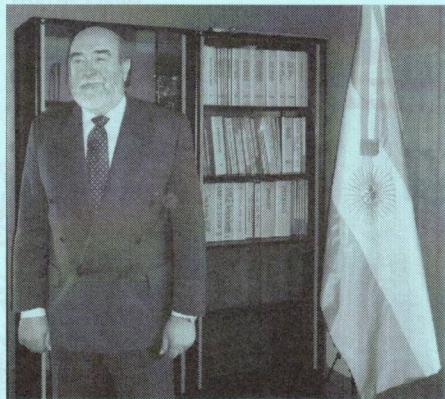
協会の活動案内

～協会主催「タンゴ音楽の集い」開催予定～ ....11

～平成22年度通常総会並びに懇親会～ .....11

～スペイン語講習会新規募集～ .....11

# ラウル・デジャン 駐日アルゼンチン共和国大使ご着任



ラウル・G・デジャン・ロドリゲス  
駐日アルゼンチン共和国大使

駐日アルゼンチン共和国大使ラウル・ギジェルモ・デジャン・ロドリゲス氏は、昨年10月末に来日し、12月27日、天皇陛下に信任状を奉呈して、大使としての活動を開始されました。

日本アルゼンチン協会では、本年1月11日、友国会長、木島理事長、中野、荒尾、加藤の各常務理事及び守戸理事がラウル・デジャン大使を表敬訪問し、懇談しました。

この懇談で、デジャン大使は、信任状奉呈式は、簡素な中にも親愛の情のこもったものであり、天皇陛下から、かつてアルゼンチンを訪垂した際、大変良い思い出を持つことができたとのことのお言葉があったとのことがありました。同大使は、年頭の宮中での祝賀会にも出席され、その他活発な活動を始めている様子が伺われました。

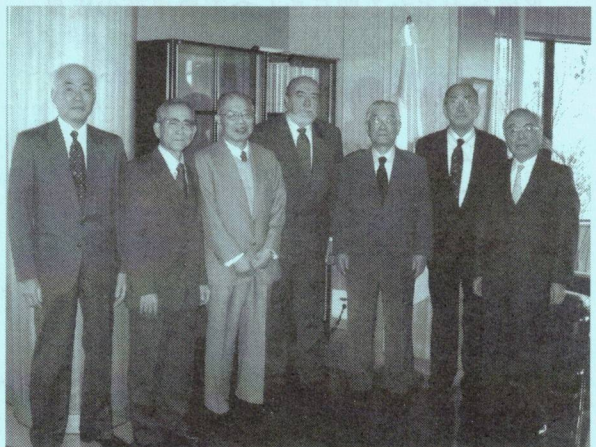
大使は、最近のアルゼンチン経済は大きく成長しており、これに伴って日本とアルゼンチン間の貿易も活発化していると認識しており、今後さらに交流が進むことを期待しているとの発言がありました。協会側からは、昨年のアルゼンチン建国200周年の事業につき、大使館に協力して成果を上げたが、今年も引き続き協力してゆきたい旨を述べましたところ、これに対し、大使は、アルゼンチン協会と密接に意見交換をし、情報も得て、日亜関係の増進に一層努力してゆきたいと述べられました。

デジャン大使は、直前のポストは、本国で外務省の科学技術担当局長で、科学技術に関する国際会議などマルチの場での活動のほか、地デジの日本方式の採用決定などにも関与していたとのこと。また、経済省において、産業振興の業務に従事しており、ラバーニャ経済相の顧問を務めていました。

大使の経歴は、次の通りです。

## ラウル・デジャン 駐日アルゼンチン共和国大使 略歴 (Dr. Raul Guillermo Dejean Rodriguez)

- 1948年1月 ブエノス・アイレス生れ
- 1) 1983年10月～1986年9月  
在イタリア大使館経済貿易担当参事官
  - 2) 1986年～1988年7月  
経済省多国間経済交渉課課長補佐
  - 3) 1989年～1990年1月  
経済省産業協力課長
  - 4) 1988年7月～1990年1月  
経済省輸入課長
  - 5) 1990年1月～1992年6月  
在バルセロナ領事館貿易振興事務所長
  - 6) 1992年6月～1995年7月  
在スペイン大使館経済貿易担当公使
  - 7) 2000年1月～2002年1月  
外務省貿易振興援助課長
  - 8) 2002年1月～2002年10月  
外務省観光・投資援助課長
  - 9) 2002年10月～2003年5月  
外務省輸出振興局長
  - 10) 2003年5月～2005年2月  
経済生産省産業庁副長官
  - 11) 2006年2月～2010年10月  
外務省科学技術問題担当局長



新大使表敬：向かって右から（敬称略）：

荒尾、中野、友国会長、デジャン大使、守戸、木島、加藤

# SIMPLEMENTE, HASTA PRONTO

～忘れえぬ日本に想いを寄せて

アルトウーロ・ギジェルモ・マルフォルト

(在日アルゼンチン大使館武官、海軍大佐アルトウーロ・ギジェルモ・マルフォルト氏が、昨春6月、帰国されました。日本在任2年間に想いを寄せて寄稿して頂きました。)

私の軍人としての人生設計の中で、アルゼンチン国外で任務を遂行するように任命されるとは思いもよりませんでした。しかも、運命が光栄にも日本に自分を差し向けるとは想像だにしませんでした。このように、私の日本赴任は大変な驚きであり、未知のものへの挑戦と在日アルゼンチン大使館の防衛武官室を再開させるという重責があり、最善を尽くし考慮に考慮を重ねて実践してきました。

私が日本に赴任したのは2008年ですが、それはちょうど、アルゼンチン海軍の荘厳な巡回大使である練習艦“リベルタ”号が横浜に寄港した年で、リベルタ号と乗員の日本寄港は、その年の“日本アルゼンチン修好通商航海条約110周年”記念に華を添えました。

しかも、私が離日する今年は、アルゼンチンにとっては更に重要な記念である“建国200周年”の年にあたります。この建国の元となった五月革命の市民と軍人の運動は、ナポレオン・ボナパルトによって侵略されたスペインとの政治的繋がりを絶ち、新国家の礎を築くという長く険しい道の始まりとなりました。非常に困難な道のりでしたが、1816年7月9日に独立宣言に至りました。

約200年の独立国家としてのアルゼンチンの歴史の中で、日本との関係は100周年以上の特別な意味があります。過去の様々な出来事が日本とアルゼンチン両国国民の相互の尊敬と友情の絆を深めてきましたが、その中には、私の職業に深く関係した出来事もありました。その最たるものが、“モレーノ”と“リバダビア”というアルゼンチン装甲艦の日本への譲渡です。この2隻は“日進”及び“春日”と命名され、対馬海戦の東郷平八郎元帥率いる艦隊に編入されました。日本の皆様はこの出来事を親愛をこめて思い起こされます。

“日本アルゼンチン修好通商航海条約110周年”と“アルゼンチン建国200周年”の2つの記念に代表される日本滞在でありましたが、この人生経験を文字としてしたためるには紙が何枚あっても足りず、ましてや数行の短い言葉で表すことはなおさらです。

なによりもまず、妻のマルタと私を“我が家”にい

るかのように感じさせてくれた皆様に感謝しております。ダニエル・ポルスキ大使及びノルマ大使夫人を始め、在日アルゼンチン大使館の外交官、防衛省及び日本自衛隊の官僚及び自衛官、各国在日武官団、同様に日本アルゼンチン協会の皆様は、この貴重な人生経験において始めから変わらぬ友情を示してくださりサポートして下さいました。他にも沢山の皆様のお世話になりましたが、1人1人のお名前をここに述べることは残念ながら控えさせていただきます。

日本はアルゼンチンの対蹠点にあります。地球の反対側にいることは私たちの心に深い影響を及ぼしました。この2年の日本滞在中、休暇はアルゼンチンに行くのではなく、日本をより深く知るべく努力するために使いました。私たちは日本に一番の関心を持っておりました。その豊かな文化の懐にもぐり込み、素晴らしい習慣に慣れ、美しい地理・地形を訪ねるよう努めました。大いに努力したにもかかわらず、その目標からは遠く、達成することはできませんでした。南は沖縄県那覇市から北は北海道の知床まで旅行いたしました。下田の陽光溢れる浜辺、壮麗な富士山頂、歴史ある日光、京都、白川郷、伊勢神宮と高野山の聖域、松島や宮島の絶景、金沢の兼六園、水戸の偕楽園などの名庭園、他にも沢山の素晴らしい日本各地の忘れ得ない思い出が、私たちの心にも脳裏にも焼きついています。

一方、私たちはある種の淋しさを禁じ得ません。というのも、ここには沢山の愛情・想いが残っているからです。しかし、たとえ日本とアルゼンチンを分かつ距離がとてつもなく大きく絶対的なもので再会の可能性が非常に微々たるものでも、“SIMPLEMENTE, HASTA PRONTO” (では、またすぐお会いしましょうの意)をお別れの言葉とします。何故なら、真の友情は終わることなく真の友は分かつ距離に関係なく、いつも私たちの側にいてくれるからです。

(アルトウーロ・ギジェルモ・マルフォルト：  
在日アルゼンチン大使館  
防衛・陸・海・空軍 前武官 海軍大佐)

(原文西語)

## **SIMPLEMENTE, HASTA PRONTO**

En mi proyecto de vida profesional, nunca di por cierto que podría ser designado para cumplir funciones fuera de Argentina. Mucho menos imagine que el destino me depararía tan alto honor en Japón. Es así que mi nombramiento fue toda una sorpresa aunque el desafío por lo desconocido y la enorme Responsabilidad que acarrea reabrir la Agregaduría de Defensa de la Embajada de la República Argentina en Japón me obligaron a concentrar mis esfuerzos y cavilaciones en cuestiones más pragmáticas.

Mi llegada en 2008 coincidió con la visita al puerto de Yokohama del Buque Escuela Fragata "LIBERTAD", majestuosa embajadora itinerante de la Armada Argentina, que con su presencia y la de sus tripulantes en estas tierras le otorgó un especial realce a la celebración del 110 aniversario de las relaciones diplomáticas entre ambas naciones.

Notablemente, en ocasión de mi partida nos encontramos ante otra celebración, en este caso mucho más trascendental para mi Patria: el Bicentenario de la Revolución de Mayo, movimiento cívico-militar que marco la ruptura de los lazos políticos con la corona española usurpada por Napoleón Bonaparte y puso en marcha el largo y difícil proceso de organización de un nuevo estado, proceso que no estuvo exento de dificultades y que tuvo su punto culminante en la Declaración de la Independencia el 9 de julio de 1816.

Frente a los casi 200 años de vida como nación independiente, nuestra relación más que centenaria con el Japón Adquire un significado muy especial. Contribuyen a ello diversas circunstancias que en el pasado estrecharon los lazos de afecto y respeto mutuo entre ambos pueblos, algunas de las cuales están ligadas íntimamente a mi profesión. Entre las últimas destaco la cesión de los cruceros acorazados Moreno y Rivadavia, rebautizados aquí Nisshin y Kasuga y que integraron la fuerza naval del Almirante Togo en la batalla de Tsushima, hito recordado con profundo afecto por el pueblo japonés.

Enmarcada por estas dos celebraciones, mi permanencia en Japón se convirtió en una experiencia de vida que resultaría imposible condensar en una decena de páginas, menos aún en unas pocas líneas. Mi primer pensamiento está dirigido a quienes hicieron posible que tanto mi esposa Marta como yo nos sintiéramos "como en casa".

Entre ellos se cuentan, desde luego el Sr. Embajador Daniel Polski y su esposa Norma, los funcionarios de la Embajada Argentina en Japón, funcionarios y personal uniformado del Ministerio de Defensa y Fuerzas de Autodefensa de Japón, la comunidad de agregados de defensa acreditados en este país y, con igual trascendencia los miembros de la Asociación Nipo-Argentina quienes, desde el primer día, nos acompañaron en esta inolvidable experiencia de vida y ofrecieron sin condicionamientos su amistad y apoyo. Podría extender mucho más la lista, pero inevitablemente me llevaría a nombrar uno por uno a todos los que en algún momento tuvieron contacto con nosotros.

Japón se encuentra en las antipodas de nuestra querida Argentina. Estar del otro lado del mundo influyó decididamente en nuestro espíritu. En estos dos años optamos por no visitar nuestro país y dedicar todos nuestros esfuerzos a conocer la región. Japón fue desde luego el centro de nuestro interés. Intentamos sumergirnos en su rica cultura, adaptarnos a sus sanas costumbres y conocer su excepcional geografía. Desde luego que a pesar del ingente esfuerzo realizado estaremos muy lejos de haber alcanzado esa meta, Pero, el haber recorrido estas hermosas islas desde Naha en Okinawa hasta Siretoko en Hokkaido, desde las soleadas playas en Shimoda hasta la majestuosa cumbre de Fuji-san, las centros históricos de Nikko, Kyoto, Shirakawa-go, los sitios sagrados en Ise y Koyasan, los paisajes de Matsushima y Miyajima, los hermosos jardines en Kanazawa y Kairakuen, y muchos otros lugares más nos dejan un inborrable recuerdo de esta maravillosa tierra, grabado a fuego en nuestras mentes y corazones.

Nos embarga también algo de tristeza, pues son muchos los afectos que quedan aquí. Pero aunque la distancia sea despotra y exiguas las posibilidades de un reencuentro, nuestra despedida es "simplemente, un hasta pronto", pues la verdadera amistad jamás termina y el verdadero amigo, no importa la distancia que lo separa, estará siempre presente a nuestro lado.

**Arturo Guillermo Marfort**

# 2010年

## アルゼンチン建国（革命）200周年記念事業

～会員、各方面からのご支援を得て、当協会が主たる関与をした主要事業の成果を報告します～

### 1. 5月25日（火）

#### 建国（革命）200周年記念式典

式典は、在日アルゼンチン大使館主催で、亜国建国記念日に当たる5月25日に、帝国ホテルで、盛大に開催。

大勢の参加者で会場を埋め尽くし、タンゴ音楽とダンスも観賞する盛況な催しとなった。当協会からは友国会長、木島副会長兼理事長、他役員が参加した。



ボルスキ前大使ご挨拶

を深める為の祝賀会。駐日アルゼンチン大使ご夫妻、他、各界の著名人が参加され、華やかに盛況に催された。

かのオルケスタ・テイピカ・東京楽団の団員が壇上に上がり、当時のオルケスタ・テイピカ・演奏スタイルで演奏したスペシャル・タンゴショーでは、会場は拍手に包まれ、参加者はガラ・ナイトを満喫した。当協会からも友国会長、木島理事長他役員が参加した。



友国会長 乾杯ご挨拶

### 2. 5月26日（水）

#### アルゼンチン・ガラ・ナイト

的場博子氏（アルゼンチン音楽著作権協会駐日代表、当協会理事）主催による、アルゼンチン建国200周年祝賀ガラ・ナイトが、ホテルオークラ東京 アスコット・ホールで午後6時半から開催された。

明治37年（1904年）の日露戦争に於いて、当時の最新鋭装甲巡洋艦2隻（日本での命名は“日進”、“春日”）を、アルゼンチン海軍が日本海軍に譲ってくれたこと、太平洋戦争終戦直後、アルゼンチン海軍のフリゲート艦2隻が、アルゼンチン産小麦を満載して横浜港に入港、食料不足の日本に寄贈してくれたこと。感謝の気持ちを込め、200周年を一人でも多くの友達、友人とお祝いする為、また、両国交流の場として更なる友情



タンゴダンス・ショー

### 3. 6月4日（金）

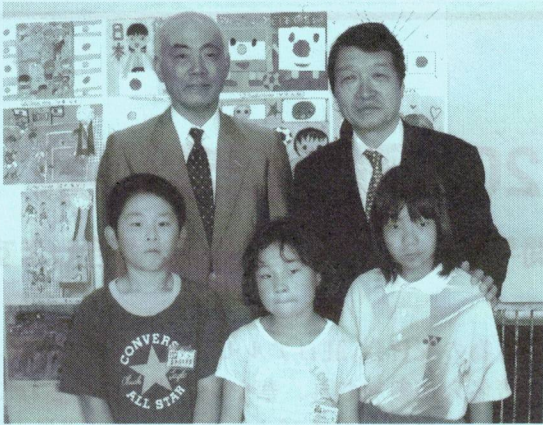
#### 長田小学校「アルゼンチンの日のつどい」と児童絵画展

77年に亘りアルゼンチンとの友好関係を大切にしている茨城県境町立長田小学校で、恒例の第22回「アルゼンチンの日の集い」が開催された。

今年は200周年記念として、特別に、アルゼンチン大使館/日本アルゼンチン協会共催で「児童絵画展」を開催した。小学2～3年生を対象に300点近い応募作品から選ばれた30点が展示され、またその中から優秀作品が選出され、賞状、記念品が授与された。



アルゼンチン協会より奨励賞を表彰



受賞生徒と共に

## 4. 8月28日（土） フィエスタ・アルヘンティーナ in 日比谷公園

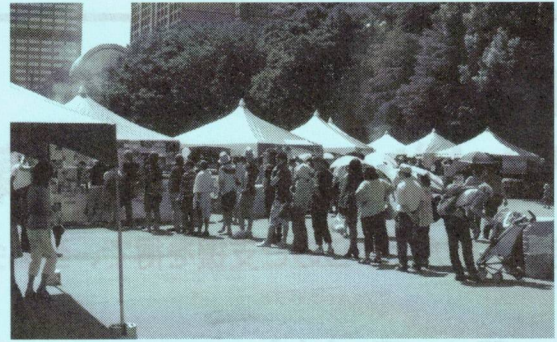
アルゼンチン共和国大使館主催、日本外務省/日本アルゼンチン協会/アルゼンチン音楽著作権協会後援、東京都千代田区協力により、日比谷公園（大噴水前および野外音楽堂）で開催されたアルゼンチン祭「フィエスタ・アルヘンティーナ」は、好天に恵まれ、予想を越えた延べ4,000人以上の来場者を得て、成功裡に開催することが出来ました。

大噴水広場には、21個のアルゼンチン、ラテンアメリカ飲食関係及びアルゼンチン物産のブースが並び、一方野外音楽堂のステージでは12:00~18:00まで、約40名に及ぶアルゼンチンタンゴ・ミュージシャン、ダンサー及びラテン音楽ミュージシャンが、かわるがわる間断なく演奏し、野外観客席は、常に大勢の来場者で埋まり、音楽演奏、ステージをエンジョイしていました。

このイベントを催すに当たり、アルゼンチン大使館並びに各関係会社の尽力、また、企業数社からの協賛も得まして、アルゼンチン祭という初めてのイベントにも拘わらず、成功裡に開催された事は、大きな喜びでありました。



友国会長開会ご挨拶



アルゼンチン・ワイン、フードに並ぶ来場者

## 5. 10月11日（月、祝日） 日垂友好親善サッカー大会

アルゼンチン建国200周年を記念し、日本・アルゼンチン両国の更なる友好親善に向けて親善サッカー大会を開催した。

場 所：

千葉県習志野市茜浜

レナウン・オービック習志野グラウンド

参加チーム：

第1試合：長田小学校（低学年）vs  
St.Anthony FC(世田谷)

第2試合：長田小学校（高学年）vs Renato FC(田無)

第3試合：Argentina（成人）vs

Japòn（Porteños = ブエノスアイレス  
日本人学校OB）

第4試合：JEFレディース U-18 vs

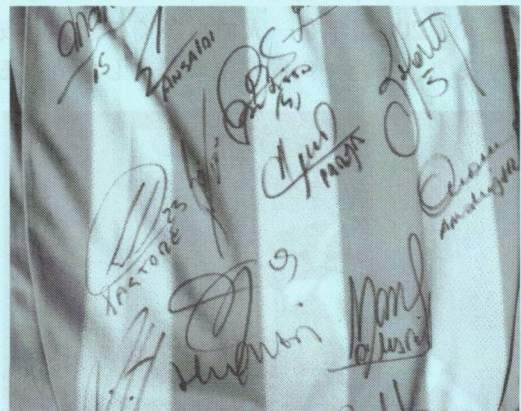
日垂混合チーム（成人）

主 催：

在日アルゼンチン大使館/日本アルゼンチン協会

協 力：JEF千葉、茨城県境町立長田小学校

同グラウンドは、JEFレディースU-18の本拠地で、プロの試合が行われる素晴らしいピッチで、元Jリーグで監督経験のある荒川氏（現レディースU-18の監督で、かつてアルゼンチンで9年間武者修行された方）のご高配を得て、今回の会場として使用させて頂いたもの。各チームプレイヤーが快晴下のピッチで心



10月8日、ザック・ジャパンと戦ったアルゼンチン代表チーム選手のサイン入りジャージー（メッシ選手のサインはどれかな）

行くまでプレイに熱中している様子は感動的でありました。長田小学校の両チームともに、見事なプレイで、無失点で快勝し、(低学年3対0, 高学年4対0) また、今大会のコーディネーター兼競技担当委員である渡辺信彦氏が持参されたアルゼンチン・チーム選手の直筆サイン入りジャージー(10月8日行われたザック・ジャパン対アルゼンチン戦の際に、アルゼンチン・ナショナルチームのジャージーにメッシ選手他イレブンのサインをもらったもの)に接し、“メッシのサインはどれ”と目を輝かしており、生徒たちにとっては、末永く記憶に残る体験だったと確信した次第です。



長田小学校チームに勝利カップ贈呈



出場2チームが共に快勝、大活躍の長田小学校(鈴木校長)にペナント(メッシ選手サイン入り)贈呈

## 6. 10月16日(土) 第15回(200周年記念スペシャル) 「タンゴ音楽の集い」

今回は、200周年記念事業として、在日アルゼンチン大使館/日本タンゴアカデミー/日本アルゼンチン協会の共催で、アルゼンチンからアルゼンチン国立タンゴアカデミー第1副会長ガブリエル・ソリア氏を日本にお招きして、タンゴ・セミナーをも開催。

日本タンゴアカデミー会長島崎長次郎氏にも講演して頂き、毎回好評の当協会理事 飯塚久夫氏(同アカデミー副会長)の名解説とトークの「タンゴ音楽の集い」は、東京セルバンテス文化センター(千代田区六番町)で、約160名の参加者を得て、盛況な催しとなりました。

また、催し終了後、17:30から、同文化センター7階で(スペイン・レストラン; MESON

CERVANTES)、懇親夕食会を実施し、ガブリエロニ駐日代理大使、木島当協会理事長他役員が参加して、ソリア氏、島崎会長、「集い」参加者を囲み、楽しい懇親の夕を過ごされました。



向かって左から、日本タンゴアカデミー 島崎会長、アルゼンチン国立タンゴアカデミー ソリア第一副会長、アルゼンチン大使館 マルタ・ガブリエロニ代理大使、当協会飯塚理事(日本タンゴアカデミー副会長)、当協会木島理事長

## 7. 11月7日(日) 第48回アルゼンチン共和国杯競馬 (重賞GⅡレース)

11月7日、東京競馬場で行われた第48回アルゼンチン共和国杯は、「亜国建国200周年記念」と銘打って、日本アルゼンチン協会も協賛して行われた。

トーセンジョーダン号に騎乗した若手ナンバーワンの三浦皇成(みうらこうせい)騎手がみごと重賞制覇。200周年記念に華を添える結果となった。また、今回は特別に同競馬場内にて、アルゼンチン物産(ワイン、ハチ密等の特産品)を販売して、来場者の好評を博した次第。

アルゼンチン大使館からは、マルタ・ガブリエロニ代理大使、パブロ・ロドリゲス/サンドラ・ウインクラ一書記官など10数名が参加し、アルゼンチン協会からは、木島理事長他関係役員を含め10数名が参加し、昼一番に行われたアルゼンチン国歌斉唱を参加者全員で歌い上げ、競馬場内はおおいに盛り上がった次第。



優勝カップ贈呈直前に:向かって左から、木島当協会理事長、マルタ・ガブリエロニ代理公使、佐藤浩二JRA総括官(国際渉外担当)



三浦皇成騎手を囲んで

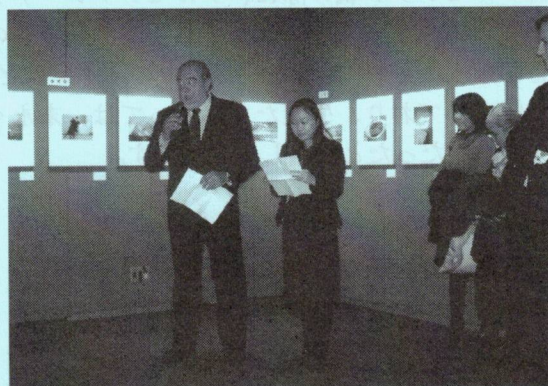
## 8. 12月16日(木) アルゼンチン建国200周年記念 フォトコンテスト

「アルゼンチンから吹く風——受賞作品展」

在日アルゼンチン大使館主催で(当協会協賛)、日本在住のアマチュアの方々がアルゼンチンで撮った写真(テーマは自由)を募集し、応募作品から45点の入賞作品の展示会、並びに優秀作品の表彰式を行いました。

プロ写真家・日本写真協会関係者・アルゼンチン大使館から成る審査員により、入賞・優秀作品が選出され、12月16日当日は、11月末ご来日され、その直後にも拘わらず、ラウル・G・デジャン・ロドリゲス新大使がご出席されご挨拶されました。

当協会からは、木島理事長をはじめ多数の役員が参加し、優秀作品の授賞式に参列した。展示会場は、東京都新宿の(株)アイテム本社ビル2階 アイテムフォトギャラリー「シリウス」で、12月16日から12月25日まで作品が展示され、初日から多くの来場者が訪れた写真展であった。



デジャン大使、優秀作品の発表



受賞者と共に



グランプリ

「カタマルカの風景」

撮影地：カタマルカ  
永戸 順子さん



優秀賞

「街角」

撮影地：ブエノス  
アイレス・ボカ  
柴田 享美さん

## 亜国人若者を通じて知ったアルゼンチン魂

～栗村成彦氏と語る

高木 一臣

最近、栗村成彦(クリムラ・ナルヒコ)(註;当協会正会員)という洋画家の訪問を受けた。

後記の略歴が示す如く美術とは縁のない仕事につきながら、画家をも兼ねた変わった人物で米国やヨーロッパで個展を開くなど国際的にも知られた洋画家で

あるが、“南米のパリ”と言われるラ米の文化大国アルゼンチンでも個展を開きたいと思い、下検分にブエノスアイレスに訪れたとのこと。その他に、もう一つ目的があった。ギジェルモ・クラウレというアルゼンチン人若者に会うためである。この若者は、東京の六本



木でタンゴダンスを教えていたところ、偶然の機会で彼のレッスンを受けるようになり、師弟の関係を越えて彼との間に友情が生まれた。現在、彼はアルゼンチンに帰っているところから、再開を兼ねての訪垂でもあった。その感激を記したのが次に示す栗村氏の文である。

## ～アルゼンチン魂を示してくれた ギジェルモ・クラウレ君、 ありがとう！～

2010年1月12日、成田空港夕刻4時、ついにその時が来てしまった。ギジェルモが「クリムラサン、アリガトウ・・・」と私を抱きしめた。今まで一度も涙を見せたことのない彼が、嗚咽しながら泣いている。私も涙が止まらなかった。

「ギジェルモ、ありがとう。よく頑張ったな・・・」

彼とは2年前の夏、東京・六本木のタンゴダンススタジオで出会った。その出会いはなんとも不思議であり、やがてプロのタンゴ・ダンサーである彼のレッスンを受けるようになった。レッスンは大変厳しく、できるようになるまで何度でも繰り返し練習するように指導された。彼のレッスンには哲学があった。単に動作を会得させるだけでなく、Intention(意志)とaxis(軸)を何時も忘れないで踊ってほしいという気持ちがにじみ出ているのだ。彼は私の息子と同じ歳ということもあり、レッスンの前後によく語り合った。日を重ねるほどに、もう一人の息子が出来たような気持ちになっていった。

共通語と言えばヘタクソな英語と身振り手振りの会話であったが、お互いを理解するには充分だった。

彼は当時29歳。母国であるアルゼンチンにはすでに10歳になる男の子がいて、その子と両親を残して日本でダンス・レッスンの仕事をし、その収入の多くを家族に送金していることがわかった。なかなか大変だと思うが、彼のビヘイビアを見ていて、日本の同世代(とくに都会に住んでいる)の若者が忘れてしまった「こころ」をしっかりと持っていることを感じ、強く魅かれた。

「アルゼンチンの誇りと礼儀正しさ」、「プロとしての仕事の厳しさ」、「用心深さと情け深さ」、これらを持った人間であった。

私の心の中に、タンゴを通じて「アルゼンチン魂」を残していつてくれた彼をこの3月の末から2週間ほど訪ねることになった。これほどうれしい旅はない。日露戦争のとき、日本に「モレーノ」と「リバダビア」の2隻の軍艦を譲ってくれたアルゼンチン国の友情が、100年後の私たちの友情の絆を強めてくれたと信じている。機会があれば、日系の皆様にもギジェルモ君を是非紹介したいと思っています。私たち二人は、アルゼンチンと日本の文化交流のさらなる発展に寄与出来るこ

とを願っています。私の頭の中にあるのは、私の絵と彼の写真の共同展覧会を、プエノスアイレスと東京で開催することです。テーマは「祈り」としたい。

クラウレは写真もうまく、日本で撮った写真をたくさん持っているの、後日、プエノスアイレスで絵画個展を開く時、彼の写真展も兼ねて開いたら-----と栗村氏は語っていた。栗村氏は東京でアートスタジオを開いているが、彼の作品は写真で見ると、素人(シロウト)には可なり難解である。

栗村氏略歴：

1964年 慶応義塾大学卒、大手相互保険会社に入社

1991年～ 東京大学先端科学技術研究センター

客員研究員

現在 (財)都内防災研究所常務理事

2010年度より、当協会正会員



「時の幻影」リトグラフ

2005年、米国ニューメキシコ州 タマリンド研究所にて制作

絵画の制作活動は1998年以来、米国リトグラフ工房・タマリンド研究所で制作活動、米国ワシントン、東京、鎌倉等で個展を開催してきている。

(たかぎ かずおみ：「らぶらた報知」編集長)

(上記記事は、昨年5月、プエノスアイレス現地新聞「らぶらた報知」に掲載された記事であり、高木、栗村両氏の承諾を得て、転載するものです。)



# キルチネル前大統領の逝去と亜国政情

～亜国政治経済短信～

荒尾 保一

## 1. キルチネル前大統領の逝去

2010年10月27日、ネストル・キルチネル前大統領が急逝された。60歳の若さであった。キルチネル前大統領は、かねてから心臓に持病があり、昨年9月冠動脈硬化のため緊急手術を受けたがすぐ退院し、キルチネル派の大規模集会で演説するなど平常業務に復帰していた。

しかし、1か月余り後の10月27日、カラファテの自宅で、心筋梗塞のため急死した。遺体は、ブエノスアイレスの大統領府に移され、多数の市民が5月広場に集まり、弔意を表した。また、南米各国から大統領が弔問に駆け付けた。その後、遺体は、サンタクルス州リオガジェゴに移され、葬儀ののち、同地に埋葬された。

在日アルゼンチン共和国大使館は、口上書をもって、当日本アルゼンチン協会に対し、キルチネル前大統領の逝去を通報してきた。この口上書では、「故キルチネル大統領がアルゼンチン共和国の歴史において残した功績、国家に対する忠誠と民主主義における価値の創出は、国民の賛辞に値するものである。また、同大統領は、軍事政権下において、組織的に人権が侵害された時代にも人権擁護に不屈の精神で尽力した。大統領在任中も、アルゼンチン国内あるいは周辺諸国において、人権の保護のため社会的、政治的生命をかけて活動してきた。アルゼンチン政府は、故キルチネル大統領の功績に敬意を表するため、3日間の国民服喪を布告した。」と伝えてきた。

当協会からは、友国会長以下役員が大使館を訪れ、弔問の記帳を行った。

## 2. 故キルチネル大統領の業績

故キルチネル大統領は、1950年リオガジェゴに生まれた。学生時代は、ペロン党青年組織に入り、軍党政権への反対運動に参加した。1987年、リオガジェゴ市長に当選、1991年には、サンタクルス州知事に当選した。2003年の大統領選挙で、メネム元大統領と争い、当選を果たした。

当時、アルゼンチンは、長い不況下にあり、2001年にはデフォルトに追い込まれた。2002年の経済成長率はマイナス10.9%と最悪であった。

キルチネル大統領が大統領に就任した2003年以後、一次産品価格の急上昇などがあり、アルゼンチン経済は急速に回復し、以後大統領



在任期間を通じて、8～9%の高成長を成し遂げた。

経済の好調を背景として、国民の高い支持率を獲得し、強力な政権基盤を確立した。議会でも圧倒的過半数を得、これに基づいて、行政権の強化を図り、さらに司法改革を行って、これまでにない強力な大統領としてリーダーシップを発揮した。また、軍政時代の人権問題を洗い出し、軍の政治分野への関与を徹底的に弱体化させた。

農産物の好調な輸出により、膨大な貿易黒字を生み出し、外貨準備は大幅に増加した。この外貨準備を用いて、IMFからの債務を一括繰り上げ返済し、IMFの経済運営への干渉を排除した。外交面でも、メネム時代の親米路線から、チャベス・ヴェネズエラ大統領などラテン諸国に軸足を置いた路線に変更していった。

## 3. フェルナンデス政権の誕生

このような実績を背景に、キルチネル大統領は国民の高い支持率を得ていたが、2007年の大統領選挙には立候補せず、夫人のクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル氏を大統領候補に立て、当選させた。クリスティーナ・フェルナンデス大統領は、キルチネル大統領と同じように長い政治経験があり、キルチネル大統領よりも、より実務的な政治を行うのではないかとの見方もあったが、農産物に対する課徴金の問題をめぐる農牧業界との対立など厳しい局面に立たされることが多く、故キルチネル大統領への依存が強くなった。特に2009年の中間選挙で、議会の過半数を獲得することができず、日々の政治的駆け引きで故キルチネル大統領に頼らざるを得ないという状況に追い込まれた。こうした状況の中で、キルチネル大統領の急逝は、フェルナンデス大統領にとって大きな痛手であることは言うまでもない。

## 4. キルチネル大統領逝去後の政局

2011年、フェルナンデス大統領の任期が満了し、大統領選挙が実施される。この選挙には、フェルナンデス大統領が引退し、キルチネル大統領が再度出馬するのではないかとの観測も一部にはあった。故キルチネル大統領の死去によって、この可能性が消えてしまった。

フェルナンデス大統領は、葬儀終了後ただちに演説で、キルチネル大統領に恥じない政治を行う責任を感じていると述べ、公務を再開した。ダニエル シオリブエノスアイレス州知事も、故大統領の功績を称えたうえで、フェルナンデス政権への支持を呼びかけた。なお、シオリ州知事は、ペロン党内で、キルチネル派と反キルチネル派を結びつけ得る有力な大統領候補という見方も出ている。

キルチネル大統領死去前には、ペロン党内では、反キルチネル派の有力者の候補一本化の動きもあった。また、野党の急進党内では、コボス現副大統領とアルフォンシン議員との間で大統領選に向けた調整が行われているとのニュースも伝わっていた。

しかし、故キルチネル大統領の急逝により、フェルナンデス大統領への同情票があり、支持率は回復している。故キルチネル大統領という強力な権力基盤を失った現在、変革の時代が到来するのではないかとの希望を込めた観測がマスコミに見られたが、今のところ

ろそのような兆候は見られないというのが多くの見かたのようである。

アルゼンチンは、丁度バカシオンの時期であり、大統領選挙についても、積極的に名乗りをあげる有力政治家はいないというのが現状である。

## 5. アルゼンチン経済の現状

アルゼンチン経済は、依然好調な成長を示している。市場見通しでは2010年の成長率は7.9%、2011年は5.6%と予想されている。株価は、一次産品の価格上昇、為替の安定等により史上最高値となっており、中銀の外貨準備も史上最高である。

自動車販売は、11月で、前年同月比67.7%増となり、薄型テレビ、携帯電話などの売れ行きも好調である。スーパーなど小売業界の売り上げは、11か月連続で伸び率が2桁台となっている。財政収支は、一次財政黒字が前年同月比335%と大幅な黒字である。貿易収支も931百万ドルの黒字である。他方、物価は前年同月比11%上昇で、インフレが懸念されている。

(アルゼンチン政経事情トピックについては、当協会ホームページ「掲示板」に、逐次掲載しております。ホームページ閲覧方法は、本会報裏面(最終ページ)をご参照ください。)

(あらお やすいち：当協会常務理事)

## 協会の活動案内

### 1. 協会主催「タンゴ音楽の集い」開催予定

ご好評の「タンゴ音楽の集い」を、本年も年3回開催を予定しております。

第16回(次回)は3月18日(金)、第17回は6月24日(金)、第18回は10月に予定しております。

第16回(次回)の開催内容詳細が決まり次第、皆様にご案内しますので、ご期待ください。

### 2. 平成22年度通常総会並びに懇親会

例年同様に、5月下旬に予定しております。

### 3. 実用スペイン語講習会・初心者コース新規募集!

一同封の資料; 冬季2011-1月~4月「実用スペイン語講習のご案内」ご参照。

クラス(A1,A2,A5,B1)は、学習レベルが上がっている従来受講されている方々のクラスです。今回から、スペイン語を全くの初歩から学習希望される方の為のクラス(A3,A4)を新規に設けました。担当の先生は日本語を話せますので、安心してネイティブのスペイン語を学ぶことが出来ます。A3は火曜日の午後、A4は金曜日の午後です。奮ってご応募ください。表示の受講料は一回2時間×12回(約3ヶ月)の料金です。但し1クラス最低3名の応募が成立要件ですので、予めお含みおきください。スペイン語を使って何をしたいのか、例えばタンゴをより深く理解したい為、とか学習目的を先生に申し出れば、それに沿った授業を組み立てるよう努めます。

事務局へお気軽にお電話又はメールでご照会ください。

TEL: 03-3595-3932

同メールアドレス: argentina@nifty.com



## 協会ホームページの活用お願い <http://argentina.jp>

アルゼンチンにかかわる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えするように、上記ホームページ（HP）の掲示板に載せることにしております。

掲示板には、誰でも自由に入れますので、どうぞ気軽にご意見など掲示板にお書き込みいただき、協会、会員間の情報交換の場として活用ください。

「イベント案内」「掲示板」への迷惑書き込み防止のため、所定のパスワードを入力して閲覧して頂く方式に変更しております。HPフロント画面から、次の通り行い、ご活用下さい。

- (1) 「イベント案内」、「掲示板」をクリックしますと、“ユーザー名とパスワードが必要です”との認証画面がでます。
- (2) 「ユーザー名」欄および「パスワード」欄の両方に、「llao01」（半角英数）を入力し、「パスワードを記憶する」欄にチェック・マークを入れて、「OK」をクリックする。
- (3) 次回目からは、認証画面で「OK」をクリックするだけで閲覧できます。

### 住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-3501-4684

FAX: 03-3595-3932

E-mail: [argentina@nifty.com](mailto:argentina@nifty.com)

### 平成22年度 年会費納入のお願い

本年度も、この3月31日をもって終了となります。本年度年会費のお支払い手続きがまだお済みになっていない場合は、至急に済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員： 1万円

個人賛助会員：5千円

### 編集長よりの御礼

2010年、アルゼンチン建国（革命）200周年に当たり、在日アルゼンチン大使館関係者の皆様に於かれましては、様々な主要記念行事において、多大なご尽力をされ、所期の成果が達成されましたこと、ご同慶に存じます。

ラウル・G・デジャン・ロドリゲス新大使ご着任、ようこそ日本に。

日本アルゼンチン協会も、引き続き貴大使館との接触を密にして、更なる日亜関係の増進に努力してまいる所存にて、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

アルトウーロ・ギジェルモ・マルフォルト海軍大佐には、帰国にあたり、大変に暖かい内容のメッセージを寄稿して頂きました。

また、ラプラタ報知編集長高木一臣様のご協力により、一部記事の転載をさせて頂くことが出来ました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

### 日本アルゼンチン協会会報 第57号 2011年1月31日発行

発行人 木島 輝夫（当協会副会長兼理事長）

編集長 加藤 勝巳（当協会常務理事）

編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会

〒105-0004 東京都港区新橋 1-17-1

電話：03-3501-4684

FAX：03-3595-3932

E-mail： [argentina@nifty.com](mailto:argentina@nifty.com)

URL： <http://www.argentina.jp>

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート